


HubとInteractをアップグレードする

HubとInteractのアップグレードは、専用ツールを使用するシンプルなプロセスです。現在使用しているバージョンから、次の順序でアップグレードツールを実行する必要があります。

- 4.0から4.1にアップグレードします。
- 4.1から4.2にアップグレードします。
- 4.2から4.3にアップグレードします。
- 4.3から4.4にアップグレードします。
- 4.4から4.5にアップグレードします。
- 4.5から4.6にアップグレードします。


 アップグレードが完了したらHubにログインし、CTRL + F5を押してキャッシュをクリアするようユーザーに指示します。これにより、すべてのWebページが更新され、ユーザーインターフェイスの変更が確実に更新されます。

HubとInteract 4.0をバージョン4.1にアップグレードする

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.0がインストールされている。
- 全員がIMSサーバーからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アップグレード手順


1. バージョン4.0から4.1用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
2. アップグレーダーを実行し、指示に従います。
3. アップグレーダーが完了したら、Hubにログインし、プラグインリポジトリを開きます。
リポジトリには、現在インストールされているバージョンと使用可能なバージョンの詳細が表示され、更新できるプラグインがあることが示されます。
4. **すべて]** チェックボックスをオンにして、**更新を完了]** をクリックします。
選択したプラグインの新しいバージョンがインストールされ、バージョン4.1へのアップグレードが完了します。
5. Hubがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

HubとInteract 4.1をバージョン4.2にアップグレードする

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.1がインストールされている。
- 全員がIMSサーバーからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- このアップグレード中に使用するLicense Managerと通知センター用のDNSレコードを作成済み。この前提条件は、単一のマシン環境では必須ではありません。
- 新しいWebサイト用のSSL証明書。License Managerと通知センター。SSL証明書の詳細については、『Hubインストールガイド』を参照してください。
- dbcreatorやsysadminなど、このアップグレードの一部として作成された新しいデータベースを構成するための十分なデータベースのアクセス許可がある。
- 2GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アップグレード手順

1. バージョン4.1から4.2用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
2. HubとInteract 4.1がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。
 - Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe – アップグレーダー実行可能ファイル。
 - BluePrismHubAndInteractUpdate4.2.bin – 4.2へのアップグレードに必要なバイナリファイル。これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。
3. 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ** をクリックします。
4. 使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ** をクリックします。

5. [license Manager SQL接続を構成]画面で次の操作を行います。

a. License Managerのデータベース設定を構成するSQL Serverのホスト名またはIPアドレスと、データベースを作成するためのアカウントの認証情報を指定します。

- **[Windows認証]**を選択した場合、アカウントには適切な許可が必要です。
- **[SQL認証]**を選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。

データベース名は、デフォルト値のままにするか、必要に応じて変更できます。

b. **[接続をテストして続行]**をクリックしてSQL認証情報をテストし、接続を確認します。テストの結果を示す通知が表示されます。テストが成功した場合のみ、次のステップに進むことができます。


c. **[次へ]**をクリックします。

6. [license ManagerのIIS設定]画面で、次の手順を実行します。

a. License ManagerのWebサイトを構成します。

以下を行う必要があります。

- サイト名を入力します。
- 小文字でホスト名を入力します – これはサイトのURLとして使用されます。デフォルトのホスト名の最初の部分は変更できません。ホスト名の`.local`部分のみを変更できます。ホスト名を選択するときは、DNSとドメイン構造を考慮します。

 URLでの大文字の使用はサポートされていません。

- ポート番号を入力します。
- 適切なSSL証明書を選択します。
- **[ウェブサイトを開始]**はオンのままにしておきます。ただし、インストールの終了時にWebサイトが自動的に開始されないようにする場合を除きます。

b. **[次へ]**をクリックします。

7. [通知センター-SQL接続]画面で、次の操作を実行します。

a. 通知センターのデータベース設定を構成するSQL Serverのホスト名またはIPアドレスと、データベースを作成するためのアカウントの認証情報を指定します。

- **[Windows認証]**を選択した場合、アカウントには適切な許可が必要です。
- **[SQL認証]**を選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。

データベース名は、デフォルト値のままにするか、必要に応じて変更できます。

b. **[接続をテストして続行]**をクリックしてSQL認証情報をテストし、接続を確認します。テストの結果を示す通知が表示されます。テストが成功した場合のみ、次のステップに進むことができます。


c. **[次へ]**をクリックします。

8. [通知センター-IIS設定]画面で次の操作を行います。

a. 通知センターのWebサイトを設定します。

以下を行う必要があります。

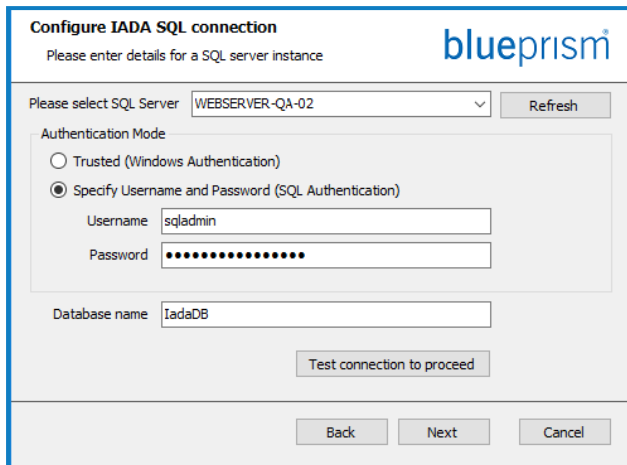
- サイト名を入力します。
- 小文字でホスト名を入力します – これはサイトのURLとして使用されます。デフォルトのホスト名の最初の部分は変更できません。ホスト名の`.local`部分のみを変更できます。ホスト名を選択するときは、DNSとドメイン構造を考慮します。

 URLでの大文字の使用はサポートされていません。

- ポート番号を入力します。
- 適切なSSL証明書を選択します。
- **[ウェブサイトを開始]**はオンのままにしておきます。ただし、インストールの終了時にWebサイトが自動的に開始されないようにする場合を除きます。

b. **[次へ]**をクリックします。

9. [ADA SQL構成を設定]画面で、次の操作を行います。



a. IADA設定を構成するSQL Serverのホスト名またはIPアドレスと、データベースを作成するためのアカウントの認証情報を指定します。

- **[Windows認証]**を選択した場合、アカウントには適切な許可が必要です。
- **[SQL認証]**を選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。

データベース名は、デフォルト値のままにするか、必要に応じて変更できます。

b. **[接続をテストして続行]**をクリックしてSQL認証情報をテストし、接続を確認します。テストの結果を示す通知が表示されます。テストが成功した場合のみ、次のステップに進むことができます。

c. **[次へ]**をクリックします。

10. [4.2へのアップグレード準備完了]画面で、**[次へ]**をクリックしてHubとInteractを4.2にアップグレードします。

11. [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。

- アップグレードが正常に完了したら、**[終了]**をクリックします。
- インストールが失敗した場合は、**[ログを表示]**オプションに、発生したエラーの詳細が表示されず。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

12. 新しいデータベースに対するデータベースのアクセス許可が、以下であることを確認します。

アプリケーション名	サービス例 のアカウント名 SQL Windows 認証	SQL Server 許可 中の要求インストール	データベース 許可 中の要求実行中のア プリケーション	デフォルトのデータベース名
Blue Prism - Notification Center	IIS APPPOOL\Blue Prism – Notification Center	dbcreator / sysadmin	db_datawriter / db_ datareader	NotificationCenterDB
Blue Prism - License Manager	IIS APPPOOL\Blue Prism – License Manager	dbcreator / sysadmin	db_owner または 実行権限のあるdb_ datawriter / db_ datareader(以下を参 照)	LicenseManagerDB

アプリケーションの実行中、License Managerはストアドプロシージャの実行に適切な許可を必要とします。許可レベルとしてdb_ownerを使用しない場合は、db_datawriter/db_datareaderを使用し、次のSQLスクリプトを実行して、必要なレベルをユーザーに提供できます。


```
USE [LicenseManagerDB]
GRANT EXECUTE to "IIS APPPOOL\Blue Prism - License Manager"
```

ここでは、

- [LicenseManagerDB]は、License Managerのデータベース名です。
- 「IIS APPPOOL\Blue Prism - License Manager」はユーザー名です。

13. Windows認証を使用する場合：

- 新しくインストールされたLicense Managerと通知センターのアプリケーションプールIDを、HubとInteractにすでに存在するアプリケーションプールと一致するように変更します。
- IISプールを実行するIDに、BPC_SQL_CERTIFICATE証明書へのアクセスを付与します。これを行うには、Windowsタスクバーから [コンピューター証明書の管理]を開きます。[個人]フォルダーで、証明書を右クリックし、**すべてのタスク**> **秘密キーの管理**を選択します。IDに一致するユーザーを追加し、ユーザーにフルコントロールを与えます。

 この証明書へのアクセスは、Blue Prism – HubとBlue Prism – IADAアプリケーションプールを実行するIDが必要とします。

- 以下の新しいフォルダーのサービスアカウントのファイルアクセス許可が [フルコントロール]に設定されていることを確認します。


- C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Notification Center
- C:\Program Files (x86)\Blue Prism\License Manager。

14. RabbitMQサービスを再起動します。

15. すべてのアプリケーションプールを再起動します。

16. IISを再起動します。

17. Hubがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

HubとInteract 4.2をバージョン4.3にアップグレードする

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

⚠ 4.3では、IMSはAuthentication Serverに置き換えられ、新規インストールによって、この変更を反映するURL、アプリケーションプール、データベース名が作成されます。このアップグレーダーを使用すると、IMSフォルダーとサイト名のみがIMSからAuthentication Serverに変更されますが、アプリケーションプール、URL、IMSデータベース名は変更されません。また、Blue Prism – Email Senderサイトの名前もBlue Prism – Email Service1に変更されますが、アドレスは変更されません。このアップグレードを実行するときは、全員がIMSサーバーからログアウトしていることが重要です。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.2がインストールされている。
- 全員がIMSサーバーからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- dbcreatorやsysadminなど、このアップグレードの一部として作成された新しいデータベースを構成するための十分なデータベースのアクセス許可。
- 2.5 GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。

ℹ アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アップグレード手順

1. バージョン4.2から4.3用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
2. HubとInteract 4.2がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。
 - Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe – アップグレーダー実行可能ファイル。
 - BluePrismHubAndInteractUpdate4.3.bin – 4.3へのアップグレードに必要なバイナリファイル。これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。
3. 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ** をクリックします。
4. [使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ** をクリックします。

5. [Email Service SQL接続を構成]画面で次の操作を行います。

- Email Serviceのデータベース設定を構成しますSQL Serverのホスト名またはIPアドレスと、データベースを作成するためのアカウントの認証情報を指定します。
 - [Windows認証]**を選択した場合、アカウントには適切な許可が必要です。
 - [SQL認証]**を選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。

データベース名は、デフォルト値のままにするか、必要に応じて変更できます。
- [接続をテストして続行]**をクリックしてSQL認証情報をテストし、接続を確認します。テストの結果を示す通知が表示されます。テストが成功した場合のみ、次のステップに進むことができます。
- [次へ]**をクリックします。

6. [Blue Prism API URL(オプション)]画面で、次の操作を行います。

必要に応じて、Blue Prism APIのURLを入力します。このURLは、Control Roomプラグインを使用する場合に不可欠です。Control Roomプラグインは、Blue Prism 7.0以降と互換性があります。

Control Roomプラグインを使用することにし、この時点でURLを入力していない場合は、構成ファイルを更新する必要があります。この方法の詳細については、『Blue Prism Hubインストールガイド』の「Hubのインストールのトラブルシューティング」セクションを参照してください。

- 4.3へのアップグレード準備完了]画面で、**[次へ]**をクリックしてHubとInteractを4.3にアップグレードします。
- [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。
 - アップグレードが正常に完了したら、**[終了]**をクリックします。
 - インストールが失敗した場合は、**[ログを表示]**オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

9. 新しいデータベースに対するデータベース許可が、以下であることを確認します。

アプリケーション名	サービス例 のアカウント名 SQL Windows 認証	SQL Server 許可 中の要求 インストール	データベース 許可 中の要求 実行中のアプリ ケーション	デフォルトのデータベ ース名
Blue Prism - Email Service	IIS APPPOOL\ Blue Prism – Email Service	dbcreator / sysadmin	db_datawriter / db_ datareader	EmailServiceDB

10. RabbitMQサービスを再起動します。
11. すべてのアプリケーションプールを再起動します。
12. IISを再起動します。
13. Hubがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。


HubとInteract 4.3をバージョン4.4にアップグレードする

4.4の新規インストールでは、Cacheのデータベースは使用されません。フォルダー内にファイルを保存する代わりに、File Serviceのデータベースにファイルが保存されます。アップグレードの場合、これらの変更は適用されず、この機能はそのまま残ります。

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。


前提条件

- HubとInteractのバージョン4.3がインストールされている。
- 全員がAuthentication Serverからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- dbcreatorやsysadminなど、このアップグレードの一部として作成された新しいデータベースを構成するための十分なデータベースのアクセス許可。
- 2.5 GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アップグレード手順

1. Hub 4.4では、.NET Frameworkのバージョン3.1.11が必要です。このバージョンをお持ちでない場合は、HubのWebサーバーを更新する必要があります。

ステップ	詳細
1	<p>次のコンポーネントをダウンロードし、C:\tempなどの一時的な場所に保管します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • .NET Core 3.1.11 Windows Server Hosting https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/thank-you/runtime-aspnetcore-3.1.11-windows-hosting-bundle-installer • .NET Core 3.1.11 Windows Desktop Runtime https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/thank-you/runtime-desktop-3.1.11-windows-x64-installer
2	<p>.NET依存関係をインストールするには、PowerShellコマンドプロンプトを使用して次の各コマンドを実行し、各コマンドが完了するまで待機してから、次のコマンドを実行します。</p> <pre>start-process "C:\temp\dotnet-hosting-3.1.11-win.exe" /q -wait start-process "C:\temp\windowsdesktop-runtime-3.1.11-win-x64.exe" /q -wait</pre> <p> ファイルパスが、手順1でファイルが格納された場所と一致することを確認します。</p>


 このインストール手順を視聴するには、[.NETのインストールビデオ](#)を参照してください。

- バージョン4.3から4.4用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
- HubとInteract 4.3がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。

- Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe – アップグレーダー実行可能ファイル。
- BluePrismHubAndInteractUpdate4.4.bin – 4.4へのアップグレードに必要なバイナリファイル。

これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。

- 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ**]をクリックします。

 .NET Framework 3.1.11以降をインストールしていない場合、[前提条件]画面が表示され、インストーラーを終了して.NET Frameworkを更新する必要があります。

- 使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ**]をクリックします。
- [4.4へのアップグレード準備完了]画面で、 **次へ**]をクリックしてHubとInteractを4.4にアップグレードします。
- [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。
 - アップグレードが正常に完了したら、 **終了**]をクリックします。
 - インストールが失敗した場合は、 **ログを表示**]オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
- RabbitMQサービスを再起動します。
- すべてのアプリケーションプールを再起動します。
- IISを再起動します。
- Hubがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。


 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

HubとInteract 4.4をバージョン4.5にアップグレードする

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.4がインストールされている。
- 全員がAuthentication Serverからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- dbcreatorやsysadminなど、このアップグレードの一部として作成された新しいデータベースを構成するための十分なデータベースのアクセス許可。
- Hubおよび/またはInteractのインストール先サーバーに2.5GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

Blue Prism Decisionの追加前提条件

Blue Prism® Decisionは、Hub 4.5で利用可能な新しいオプションのライセンス制御プラグインです。組織がDecisionを使用する場合、アップグレーダーを実行する前に次の追加前提条件が必要です。

- 新しいBlue Prism Decisionモデルサービスコンテナには、SSL証明書が必要です。
- Decisionが使用するBlue Prism Decisionモデルサービスコンテナをインストールする必要があります。

詳しくは、「[Blue Prism Decisionをインストールする](#)」を参照してください。


URLとSSL証明書の詳細は、Blue Prism InteractおよびHubアップグレーダーに入力する必要があります。以下の[手順5](#)を参照してください。

アップグレード手順

1. バージョン4.4から4.5用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーを[Blue Prismポータル](#)からダウンロードします。
2. HubとInteract 4.4がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。
 - Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe - アップグレーダー実行可能ファイル。
 - BluePrismHubAndInteractUpdate4.5.bin - 4.5へのアップグレードに必要なバイナリファイル。


これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。

3. 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ** をクリックします。


 [HubおよびInteractアップグレーダーへようこそ]画面では、Blue Prismがサポートしている任意の言語でアップグレードを実行できます。必要に応じて、ドロップダウンリストから別の言語を選択します。デフォルト言語は英語(米国)です。

4. 使用許諾契約書(EULA)画面で使用許諾契約書(EULA)を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ** をクリックします。

5. [Blue Prism Decisionの設定 (オプション)] 画面で [Decision]を使用する場合、次の情報を入力します。

 この手順は、Blue Prism Decisionを使用する場合にのみ必要です。それ以外の場合は、[スキップ]をクリックして手順7に進みます。

- a. Blue Prism Decision Model ServiceコンテナのURLに続けてポート番号を入力します。URLはhttps://<FQDN>:<ポート番号>の形式にする必要があります。
例 : https://decision.blueprism.com:50051。

 URLは証明書に指定されたFQDNと一致させる必要があります。ポート番号は、コンテナの実行時に定義したポートと一致させる必要があります。詳しくは、「Blue Prism Decisionをインストールする」を参照してください。

- b. 適切なSSL証明書を選択します。
c. [次へ]をクリックします。

6. [Blue Prism Decision SQL接続を構成] 画面で、次の操作を実行します。

- a. Blue Prism Decisionデータベースの設定を構成するSQL Serverのホスト名またはIPアドレスと、データベースを作成するためのアカウントの認証情報を指定します。
- [Windows認証]を選択した場合、アカウントには適切な許可が必要です。
 - [SQL認証]を選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。

データベース名は、デフォルト値のままにするか、必要に応じて変更できます。

- b. [接続をテストして続行]をクリックしてSQL認証情報をテストし、接続を確認します。テストの結果を示す通知が表示されます。テストが成功した場合のみ、次のステップに進むことができます。
c. [次へ]をクリックします。


7. [4.5へのアップグレード準備完了]画面で、[次へ]をクリックしてHubとInteractを4.5にアップグレードします。

8. [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。

- アップグレードが正常に完了したら、[終了]をクリックします。
- インストールが失敗した場合は、[ログを表示]オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「アップグレードのトラブルシューティング」を参照してください。

9. RabbitMQサービスを再起動します。


10. すべてのアプリケーションプールを再起動します。
11. IISを再起動します。
12. Hubがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

HubとInteract 4.5をバージョン4.6にアップグレードする

このアップグレードの一環として:


- Windows認証機能がISIにインストールされ、Authentication ServerのWebサイトに適用されます。
- RabbitMQで新しいキューが作成されます。古いキューを手動で削除する必要があります。
- Blue Prism API URLがWebサーバー構成ファイルから削除されます。これにより、Control RoomがBlue Prismと通信できなくなります。Control Roomを引き続き使用するには、Hubに管理者としてログインし、**[環境管理]**ページの**[API構成]**セクションにこのURLを再度入力する必要があります。

 http://やhttps://など、プロトコルを含むURLの全体を入力する必要があります。
例: `https://bpapi.yourdomain.com`

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件


- HubとInteractのバージョン4.5がインストールされている。
- 全員がAuthentication Serverからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- 2.5 GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アップグレード手順

1. HubとInteractサイトのすべてのアプリケーションプールを停止します。
2. RabbitMQを開き、以下から始まるすべてのキューを削除します。
 - BPC.*
 - Connect.*
 - lmsServer.*
 - Interact.*
3. バージョン4.5から4.6用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
4. HubとInteract 4.5がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。
 - Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe - アップグレーダー実行可能ファイル。
 - BluePrismHubAndInteractUpdate4.6.bin - 4.6へのアップグレードに必要なバイナリファイル。これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。
5. 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、**[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]**画面で**[次へ]**をクリックします。

6. 使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ**]をクリックします。
7. 4.6へのアップグレード準備完了]画面で、**次へ**]をクリックしてHubとInteractを4.6にアップグレードします。
8. Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。
 - アップグレードが正常に完了したら、**終了**]をクリックします。
 - インストールが失敗した場合は、**ログを表示**]オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
9. HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。
10. Blue Prism APIを使用している場合は、管理者としてHubにログインし、**環境管理**]ページでAPI URLを入力します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

Interact API VBOをアップグレードする

Interact API VBOは、Blue Prismインタラクティブクライアント内で使用され、Interactがアップグレードされたときに利用可能なInteract APIサービス内の新しい機能を利用するために個別に更新されます。最新バージョンのVBOは、[Blue Prismポータル](#)のInteract API Serviceリリースzipファイルで入手できます。

VBOのアップグレードに必要なのは、ユーティリティ - Interact VBOのアップデートだけです。

1. [Blue Prismポータル](#)からInteract APIサービスのリリースファイルをダウンロードします。
2. Interact APIサービスのリリースファイルを解凍します。
3. Blue Prismインタラクティブクライアントで、**[ファイル] > [インポート] > [リリース/スキル]**の順に選択します。
[カファイルを選択]画面が表示されます。
4. **参照]**をクリックし、抽出したInteract APIリリース.bpreleaseファイルを選択してから、**次へ]**をクリックします。
[インポートの競合を解決]画面が表示されます。
5. **解決策]**列で、次の操作を実行します。
 - a. ユーティリティ - Interact APIの設定を**既存のビジネスオブジェクトに上書きしたまま**にします。
 - b. 他のすべてのコンポーネントの設定を **[このビジネスオブジェクトをインポートしない]**に変更します。
6. **次へ]**をクリックします。
[プロセスログの概要]画面が表示されます。
7. **ユーティリティ - Interact APIのみがインポート用にリストされていることを確認**します。もし、
 - その他のコンポーネントがリストされている場合は、**戻る]**をクリックし、上記の手順5で説明したように設定を変更します。
 - これが唯一のコンポーネントなら、**次へ]**をクリックしてインポートを完了します。
8. **終了]**をクリックします。

アップグレードのトラブルシューティング

アップグレードが途中で終了しました。どうすればよいですか。

アップグレードプロセスは、障害が発生した場合に、インストールをロールバックし、アップグレード元のバージョンに戻すように設計されています。アップグレード中、インストール場所 (デフォルトではC:\Program Files (x86)\Blue Prism\) に`backup_4.n`フォルダーが作成されます。4.nには、既存のバージョン番号が反映されます。これには既存のインストール済みファイルのコピーが含まれ、インストール中にエラーが発生した場合は、ロールバックソースとして使用されます。

アップグレーダーの再実行を試みます。アップグレードを再試行する前に、アップグレード中に作成されたエラーメッセージとログファイルのすべてに目を通し、問題がすべて解決されていることを確認してから、アップグレードを再試行してください。

問題が解決しない場合は、Blue Prismサポートにお問い合わせください。

バージョン4.6にアップグレードしましたが、4.1のユーザーインターフェイスがまだ表示されています。

これが発生した場合は、ブラウザのキャッシュをクリアして、ページを再ロードします。

4.1からアップグレードしましたが、新しいキューが作成されません。

これはRabbitMQでquorumキュー機能が有効になっていないことが原因である可能性があります。Hubのログを確認すると「`quorum_queue`機能が無効です」というエラーが表示されます。

1. メッセージブローカーサーバーで、RabbitMQコマンドを実行します。

```
rabbitmqctl enable_feature_flag quorum_queue
```

2. Hub Webサーバーで、アプリケーションプールを再起動します。

キューが作成されます。

アップグレード後、InteractまたはHubにログインしようとする、IISでSignalRのWebサーバーのオーバーロードに関するエラーが表示されます。

このエラーはごくまれにしか発生しませんが、発生した場合はサイトを再ロードし、IISでアプリケーションプールを再起動します。

アップグレードプロセス中にインストールをキャンセルしましたが、エラーが表示されます。

アップグレードプロセス中は、インストールをキャンセルしないことをお勧めします。ただし、エラーが表示されてもロールバックは正常に完了します。